

令和元年6月25日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03463

研究課題名(和文) 高大連携による歴史教育の実践的研究

研究課題名(英文) Practical Studies on History Education by High School/University Spectrum

研究代表者

金井 光太郎 (KANAI, KOTARO)

東京外国語大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：40143523

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、高大連携の視点から、高等学校における歴史教育の現状と課題を分析し、その改善策を探ることを目的としたものである。その際、大学との関係を重視し、最新の歴史学研究成果を高校の歴史教育にいかにかすかという点と、歴史的思考力を評価する入学試験のあり方について注目した。現状と課題の分析には、東京外国語大学の新生を対象とする学生アンケートと学生アンケート回答者から推薦された高校教員へのアンケートを実施した一方、研究会やセミナー、シンポジウムを開催して、高校教員と大学教員の対話に努めた。また、東京外国語大学の入学試験問題をもとに、高校での歴史教育の教材を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高等学校の新学習指導要領による歴史科目の再編と大学入学共通テストの導入によって、高校歴史教育が大きな転換点を迎えることを踏まえ、本研究に先立つ科研費プロジェクト「地域研究に基づく世界史教育の実践的研究」の成果を発展させる形で、歴史的思考力を養う教育方法と成績評価方法について、実践例を提示しつつ問題提起した。各種のアンケート調査や研究会、セミナー、シンポジウムなどを通して、高校教員と大学教員の対話の機会を作り出すことができたことには、大きな社会的意義があったと考える。また、論述問題を中心とする、東京外国語大学前期日程入試「世界史」問題を教材化し、高校教員に好評であった。

研究成果の概要(英文)：This research had for its object to analyze the current state of the history education and a problem in high school and look for the reform measure from the angle of the cooperation between high schools and universities. The relation with universities was emphasized, and we paid attention about the entrance examination which estimates the historical thinking and how to utilize outcomes of the latest historical science studies for history education of high schools. We made two types of questionnaire: the student questionnaires and the high school teacher questionnaire to analysis the current state and a problem. We also held a workshop, a seminar and a symposium to make an effort toward talking of a high school teachers and university professors.

研究分野：歴史学、米国史

キーワード：歴史教育 世界史 高大連携 歴史的思考力 大学入試改革

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

2006 年秋に発覚したいわゆる「世界史」未履修問題を発端として、高等学校における歴史教育の現状と課題、その改善策がさまざまなところで議論されてきた。私たちの研究グループは、地域研究という専門を活かして高校「世界史」教育の改善に貢献しようと、科研費「地域研究に基づく「世界史」教育の実践的研究」（基盤 B、研究代表者：金井光太郎、2013-2015 年）を実施した。本研究は、この共同研究を基礎として、この間に進行した高校の歴史教育をめぐる新たな動き、すなわち次期学習指導要領改訂における「世界史」必修廃止と、歴史系の新たな必修科目としての「歴史総合」の創設、および現行「B 科目」（4 単位）の「探究」（3 単位）への再編、大学入試センター試験の廃止と新テスト（大学入学共通テスト）の導入などを踏まえ、研究対象を「世界史」1 科目から「日本史」を含む歴史系科目全体に広げ、歴史的思考力を重視した歴史教育を通して「主体的・対話的で深い学び」を実現する方法を検討することとした。

2. 研究の目的

本研究は、高大連携の視点から、高等学校および大学における歴史教育の現状と課題を分析し、その改善策を探ることを目的としたものである。具体的には、主に（1）高校における地理歴史科目の改革・再編と「世界史」教育、（2）大学の教養課程および人文・社会科学系学部における歴史教育の現状把握と、高校における歴史教育の改革・再編に即した大学における歴史教育の改革、（3）大学入試の歴史系科目のあり方などについて調査・研究し、高校と大学の歴史教育の接続の方法を構想する。

3. 研究の方法

高校における歴史教育の現状については、「地域研究に基づく「世界史」教育の実践的研究」（基盤 B）で収集したデータとの連続性を確保するため、「世界史」教育を中心に、学生アンケートと高校教員アンケートを実施し、必要に応じて高校教員への聞き取り調査を行う。引き続き夏期世界史セミナー（東京外国語大学海外事情研究所主催）に講師を提供し、高校教員とともに歴史教育の改善を模索する。また、大学入試の歴史系科目の出題についても、高校教員の意識調査を行うとともに、高校教員の協力を得て東京外国語大学の「世界史」論述問題の教材化を試みる。

4. 研究成果

高等学校における歴史教育の現状と課題を把握し、最新の歴史学研究成果を高校の歴史教育に活かす方法を模索するため、東京外国語大学の新生を対象とする学生アンケートと学生アンケート回答者から推薦された高校教員へのアンケートを実施するとともに、研究会やセミナー、シンポジウムを開催して、高校教員と大学教員の対話に努めた。また、東京外国語大学の入学試験問題をもとに、高校での歴史教育の教材を作成した。

（1）アンケート調査、聞き取り調査

<アンケート調査>

2016、2017、2018 年のいずれも 5～6 月に東京外国語大学の全新生を対象として、出身高校における世界史履修状況と歴史への関心についてアンケートを実施した。3 年度とも、600 名（定員約 800 名）を超える有効回答者を得ることができた。その結果の一部は、夏期世界史セミナーで報告した。

2016 年は例年通り、学生アンケートの回答者からの、出身高校における「優れた、あるいは独創的な歴史教育」を実践している教員の推薦をもとに高校教員アンケートを実施した。2017 年度は、次期学習指導要領で「世界史」必修廃止、新必修科目「歴史総合」創設が確実となった状況を踏まえ、2017 年 12 月～2018 年 1 月にかけて、2017 年度を含め、学生アンケートで推薦された全教員約 500 名に高校歴史教育改革を中心に意識調査を実施した。転勤などのため、回収率は約 40%にとどまったが、自由記入欄を含め、貴重な意見を集めることができた。調査結果の一部は、夏期世界史セミナー等で報告した。

<聞き取り調査>

2016 年度には 2 校 2 名（広島大学附属福山高等学校、岡山県立倉敷天城高等学校）、2017 年度には 5 校 5 名（北海道函館中部高校、岩手県立盛岡一高、静岡県立御殿場高校、熊本県立大津高校、鹿児島県立加治木高校）、2018 年度 1 名（岩手県立一関二高）に実施した。

（2）入試問題の教材化

2006 年に東京外国語大学前期日程で「世界史」を必修科目として導入して以来の入試問題をまとめ、2017 年度に報告書『大学入試問題を歴史教育に活かす - 歴史的思考教材としての東京外国語大学「世界史」』（2018 年 3 月）を制作し、高校教員を招いてシンポジウムを開催した。

（3）研究会等（所属、肩書きは開催当時）

第 1 回研究会（2016 年 7 月 6 日、東京外国語大学海外事情研究所会議室）研究打ち合わせ
夏期世界史セミナー「歴史学の最前線 VIII」（東京外国語大学海外事情研究所と共催、研究

講義棟 227 教室、2016 年 7 月 28、29 日)

第 2 回研究会 (2017 年 3 月 25 日、東京外国語大学海外事情研究所会議室)

第 3 回研究会 (2017 年 4 月 12 日、東京外国語大学海外事情研究所会議室) 前年度の活動報告と研究打ち合わせ

第 4 回研究会 (2017 年 6 月 7 日、東京外国語大学海外事情研究所と共催、同会議室)

カトリーヌ・ドニ (リール大学) 「近世フランスの植民地のポリス - フランス島ポール・ルイの事例を通じて (1767~1789)」

夏期世界史セミナー「歴史学の最前線 IX」(東京外国語大学海外事情研究所と共催、研究講義棟 227 教室、2017 年 7 月 27、28 日) 鈴木茂「科研調査報告 高大連携による近現代史教育の可能性」

第 5 回研究会「シンポジウム 入試問題を歴史教育に活かす」(2018 年 3 月 28 日、東京外国語大学研究講義棟 115 教室) 津野田興一「論述入試問題を利用した高校世界史の講習について」、鈴木茂「東京外大「世界史」入試問題と歴史用語精選」

第 6 回研究会 (2018 年 4 月 25 日、東京外国語大学海外事情研究所会議室) 前年度の活動報告と研究打ち合わせ

夏期世界史セミナー「歴史学の最前線 X」(東京外国語大学海外事情研究所と共催、研究講義棟 227 教室、2018 年 7 月 25、26 日) 鈴木茂「科研プロジェクト報告」

シンポジウム「歴史教育の未来を拓く IV」(2019 年 3 月 21 日、日本大学文理学部主催)

鈴木茂「変わる大学入試と歴史教育」

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 14 件)

金井光太郎「世界市民フランクリンに見る対抗文化としてのコスモポリタニズム」『日本 18 世紀学会年報』査読無し、33、2019 年、頁未定

青山亨「ダルマーシュラヤ試論 - ジャワ王権から見た 13 世紀前後のマラユ」青山亨編『東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築 - 「長い 12・13 世紀」を中心に』科研費成果報告書、査読無し、2019 年、17-36 頁

篠原琢「<書評> 橋本伸也編『せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題』(ミネルヴァ書房)」『東欧史研究』査読無し、41、2019 年、87-98 頁

金井光太郎「マジョリティの反乱とトランプのアメリカ - 公共意識の衰退とアメリカの分裂」『茨城史学』査読無し、53、2018 年、25-33 頁

篠原琢「主権国家再考」『歴史学研究』査読無し、976、2018 年、186-190 頁

今井昭夫「ベトナムの宗教政策 - 信教の自由と国際関係」『世界平和研究』査読無し、218、2018 年、58-66 頁

相馬保夫「2018 年度歴史学研究会大会近代史部会コメント 1」『歴史学研究』査読無し、976、2018 年、122-124 頁

久米順子「<書評> 伊藤喜彦著『スペイン初期中世建築史論 - 十世紀レオン王国の建築とモサラベ神話』」『建築史学』査読無し、70、2018 年、106-114 頁

NISHINO Noriko, AOYAMA Toru, KIMURA Jun, et al., "Nishimura Masanori's Study of the Earliest Known Shipwreck found in Vietnam," *Asian Review of World Histories*, 5-2, 2017, pp.106-122. (査読有り、国際共著)

金井光太郎「国民国家アメリカの創造とプリマスの記憶の神話化」『クアドランテ』査読有り、19、2017 年、103-115 頁

KANAI Kotaro, "From Frontier Theory to Borderland History: Native American Violence and Violence of the Frontier Theory" 『東京外国語大学論集』査読有り、93、2016 年、207-218 頁

鈴木茂「ブラジルにおけるスポーツと政治」『アジ研ワールドトレンド』査読無し、250、2016 年、4-7 頁。

千葉敏之「歴史理論」『史学雑誌 2015 年歴史学の回顧と展望』査読無し、125-5、2016 年、6-10 頁。

篠原琢「ヨーロッパ史をどう描くか、20 世紀史をどのように描くのか」『歴史学研究』査読無し、949、2016 年、55-66 頁。

[学会発表](計 10 件)

鈴木茂「変わる大学入試と歴史教育」シンポジウム『歴史教育の未来を拓く IV - 教科書・授業・入試が携えて進む改革』日本大学文理学部、2019 年

鈴木茂「新学習指導要領の地歴科・公民科新科目導入と大学入試」日本学術会議史学委員会中高大歴史教育に関する分科会、2018 年

千葉敏之「地霊論の歴史的射程 - 歴史学における<土地>への情念の定位」印刷博物館第 1 回樺塾、2018 年

AOYAMA Toru 「Many Images of the Seafaring Ship in the Process of Islamization in Java," Transformation of Religion as Reflected in Javanese Texts (2), 'Rethinking the Process of Islamization', 2018 年

吉田ゆり子「近世初期の城・城下町建設と遠山の森林資源」飯田地域史研究集会、2018年
 鈴木茂「現代史と映像」-東京外国語大学における現代史教育の試みと課題」シンポジウム『大学での学び-全ての授業に近現代史からの照射を!』早稲田大学文学部、2018年
 鈴木茂「科研調査報告 高大連携による近現代史教育の可能性」夏期世界史セミナー『世界史の最前線 IX』、東京外国語大学、2017年
 金井光太郎「市民フランクリンのコスモポリタニズム-共和主義、パトリ、世界市民」日本18世紀学会、2017年
 久米順子「ムデハル美術」を振り返る-その功罪をめぐって」スペイン史学会第39回大会、2017年
 ODAWARA Rin, KUME Junko, “¿Feminismo o eugenesia? : Debates en torno al aborto en el Japón de postiguerra,” III Congreso Internacional en Historia de las Mujeres e Estudios de Género, Ciudad de México, 2017

〔図書〕(計13件)

今井昭夫『ファン・ボイ・チャウ』山川出版社、2019年、83頁
 千葉敏之編『歴史の転換期4 1187年 巨大信仰圏の出現』山川出版社、2019年、270頁(千葉敏之担当箇所1-20、180-225頁)
 千葉敏之編『歴史の転換期5 1348年 気候変動と生存危機』山川出版社、2019年、270頁(千葉敏之担当箇所1-20頁)
 肥塚隆編『アジア仏教美術論集 東南アジア』中央公論美術出版社、2019年、636頁(青山亨担当箇所113-117頁)
 ダニエル・ポツマン、塚田孝、吉田伸之編『「明治一五〇年」で考える』山川出版社、236頁(吉田ゆり子担当箇所151-167頁)
 井奥成彦、谷本雅之編『豪農たちの近世・近代-19世紀南山城の社会と経済』東京大学出版会、2018年、445頁(吉田ゆり子担当箇所219-272頁)
 SUGAWARA Yumi and W. van der Molen eds., *Transformation of Religions as Reflected in Javanese Texts*, Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 2018, ix+179p.(青山亨担当箇所 pp.16-30)
 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題 2 世界史像の再構成』績文堂出版、2017年、305頁(鈴木茂担当箇所289-303頁)
 高橋慎一郎、千葉敏之編『移動者の中世-史料の機能、日本とヨーロッパ』東京大学出版会、2017年、348頁(千葉敏之担当箇所211-222頁)
 小田中直樹、保刈浩之編『世界史ノいま、ここから』山川出版社、2017年、348頁(千葉敏之担当箇所55-80頁)
 木村靖二、岸本美緒、小松久男編『詳説世界史研究』山川出版社、2017年、576頁(千葉敏之担当箇所104-124頁)
 KARASHIMA Noboru, HIROSUE Masashi eds., *State Formation and Social Integration in Pre-modern Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society*, Tokyo: The Toyo Bunko, 2017, xix+343p.(青山亨担当箇所135-170頁)
 遠藤泰生、金井光太郎編『近代アメリカの公共圏と市民-デモクラシーの政治文化』東京大学出版会、2017年、370頁(金井光太郎担当箇所59-88頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年：
 国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年：
 国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

東京外国語大学海外事情研究所 各科研費のページ

[www://tufs.ac.jp/common/fs/ifa/sekaishi/s_top.html](http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ifa/sekaishi/s_top.html)

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：鈴木 茂

ローマ字氏名：Suzuki Shigeru

所属研究機関名：東京外国語大学

部局名：大学院総合国際学研究院

職名：教授

研究者番号（8桁）：10162950

研究分担者氏名：篠原 琢

ローマ字氏名：Shinohara Taku

所属研究機関名：東京外国語大学

部局名：大学院総合国際学研究院

職名：教授

研究者番号（8桁）：20251564

研究分担者氏名：千葉 敏之

ローマ字氏名：Chiba Toshiyuki

所属研究機関名：東京外国語大学

部局名：大学院総合国際学研究院

職名：教授

研究者番号（8桁）：20345242

研究分担者氏名：吉田 ゆり子

ローマ字氏名：Yoshida Yuriko

所属研究機関名：東京外国語大学

部局名：大学院総合国際学研究院

職名：教授

研究者番号（8桁）：50196888

研究分担者氏名：青山 亨

ローマ字氏名：Aoyama Toru

所属研究機関名：東京外国語大学

部局名：大学院総合国際学研究院

職名：教授

研究者番号（8桁）：90274810

(2)研究協力者

研究協力者氏名：相馬 保夫

ローマ字氏名：Soma Yasuo

研究協力者氏名：米谷 匡史

ローマ字氏名：Yonetani Masafumi

研究協力者氏名：今井 昭夫
ローマ字氏名：Imai Akio

研究協力者氏名：久米 順子
ローマ字氏名：Kume Junko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。